

国公立大前期日程の受験状況

文部科学省は、2月25日より実施されている国公立大の前期日程の受験状況を発表した。1日目第1時限目の受験対象者数は241,516人。このうち受験者数は226,668人で、欠席者は14,848人となった。欠席率は昨年より0.1ポイント上昇し、6.1%となった。国立大の欠席率が前年並みに留まった一方、公立大の欠席率の上昇が目立った。〈図表1〉は過去5年の欠席率の推移である。近年、国立大・公立大ともに欠席率は上昇傾向にあることがわかる。

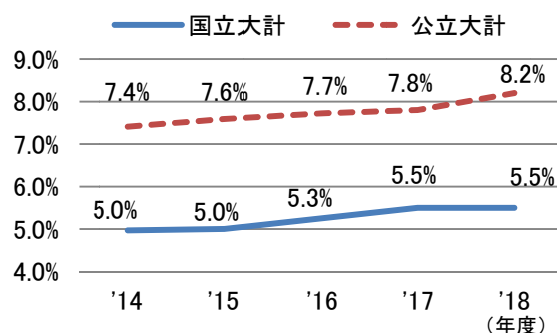
大学別にみると、最も欠席率が低かったのは京都市立芸術大で、欠席者は4人であった。そのほか、例年欠席率の低い一橋大、東京大、東京芸術大、京都大などが、今年も上位に挙がっている。

一方、最も欠席率が高かった大学は筑波技術大で30.3%。次いで新見公立大、兵庫教育大、上越教育大などが続く。例年欠席率が高い大学が今年も多くみられた。なお、欠席率が1割を超えた大学は160大学中32大学で、2割を占める。

前期日程を欠席する背景は、主に二点挙げられる。一点目は、併願した私立大へ合格して受験を取りやめるというケースである。こうした動きは公立大に多く見られる。例えば首都大東京や横浜市立大は首都圏の難関私立大との併願者が多く、例年欠席率は1割を超える。

二点目は、推薦入試に合格したために、併願した前期日程を欠席するというケースである。近年国公立大では推薦入試にセンター試験を課す大学が増えている。センター試験を課す推薦入試に出願する受験生は、合格発表日が2月上旬のため一旦一般選抜にも出願することになる。そのため、センター試験を課す推薦入試の募集人員が多い大学では、一般選抜の欠席者が多くなる傾向にある。例えば兵庫教育大は入学定員160名に対して、推薦入試の募集人員は58名（入学定員の36.3%）、上越教育大は入学定員160名に対して、推薦入試募集人員は50名（同31.3%）となっている。

〈図表1〉国公立大 前期日程欠席率推移



※文部科学省資料より

●国公立大前期日程1日目第1時限目の受験状況（文部科学省資料より）

〈全体状況〉

	2017年度				2018年度			
	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
国立計	187,488	177,171	10,317	5.5%	185,729	175,438	10,291	5.5%
公立計	54,586	50,353	4,233	7.8%	55,787	51,230	4,557	8.2%
国公立計	242,074	227,524	14,550	6.0%	241,516	226,668	14,848	6.1%

〈欠席率の低い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 京都市立芸術	507	503	4	0.8%
2 一橋	2,522	2,497	25	1.0%
3 東京	8,704	8,601	103	1.2%
4 東京芸術	1,417	1,396	21	1.5%
5 札幌市立	232	228	4	1.7%
6 京都	7,767	7,618	149	1.9%
7 秋田公立美術	103	101	2	1.9%
8 神戸市看護	149	146	3	2.0%
9 東京学芸	1,741	1,700	41	2.4%
10 帯広畜産	414	404	10	2.4%

〈欠席率の高い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 筑波技術	33	23	10	30.3%
2 新見公立	283	232	51	18.0%
3 兵庫教育	252	207	45	17.9%
4 上越教育	329	271	58	17.6%
5 愛媛県立医療技術	260	215	45	17.3%
6 香川県立保健医療	90	75	15	16.7%
7 徳島	2,196	1,833	363	16.5%
8 島根県立	1,052	887	165	15.7%
9 室蘭工業	988	835	153	15.5%
10 群馬県立女子	569	483	86	15.1%